

甘木朝倉 介護保険事業者 協議会 会報

甘木朝倉介護保険事業者協議会 会報
Vol.2 平成13年4月1日発行 第2巻第1号（通巻第2号）

Vol. 2

新年度の展望

甘木朝倉介護保険事業者協議会
会長 蓮池 年民

「私はこの町に生まれて良かった。」「高齢になっても安心して地域に住み続けられる。」、そのような住民の方達の生活づくりの『基礎』になれるようになりたい。私共、甘木朝倉介護保険事業者協議会134事業者は介護保険制度を通して、事業者相互の研鑽と交流を図るため、会合やセミナーを開催したりして日夜努力をしています。

そして、最新の情報を共有し、利用される本人やご家族の方に、どうすれば信頼されるか？また、より安全で質の高いサービス（いつでも、どこでも、早い、安い等々）を提供する為には、何をしないとイケないのかを考え、実践して自らが変わっていく必要があります。そのためにも常に住民の人たちの声を聞きながら、事業者相互連携を強めて行かなくてはなりません。

介護保険事業者と言う名の『器』は出来ました。中味も十分です。鍵は会員がお互いに助け合う事でしょう。お互いの壁を低くし、対等に話し合い、行動できるように！時を大切に使いていきたいと思います。

皆様も暖かく声援下さい。私ども、甘木朝倉介護保険事業者協議会を宜しくお願い致します。



第1回 総会開催のお知らせ（予定）

下記の通り、第1回総会を開催させていただきますのでお知らせ致します。

- 日 時：平成13年5月18日(金)
午後5時30分より
- 場 所：松屋ガーデンパレス

※総会開催の案内状につきましては、後日ご送付申し上げます。

事業報告

去る3月17日(土)午後2時より、(財)簡易保険加入者協会の主催(共催：甘木市・甘木市社会福祉協議会、甘木市連合婦人会、甘木朝倉介護保険事業者協議会)で、甘木市ピーポート中ホールにおいて「かんぽ介護支援講演会」が開催されました。〔協力：甘木手話の会〕

当日はあいにくの空模様でしたが、来場者数は530名を越え、立ち見者がでるほどの盛況ぶりでした。

甘木市連合婦人会の植田美都子会長による開会のことばではじまり、その後、「介護保険制度下の各サービス」を、協議会作成のスライドを用いながら広報部の橋本恵美さんより紹介していただきましたが、みなさん大変熱心にご覧になられ、「わかりやすかった。」「非常に為になった。」等のご意見をお寄せいただきました。当日の来場者の方々には、「協議会の事業者会員名簿」も併せて配布致しておりますので、今後介護が必要になった際に必要な基本情報をお伝えする良い機会になったのではないかと思います。

また、別室の多目的ホールで実施した、介護相談と福祉用具の展示にも開場前からたくさんの方々がお見えになり、居宅介護支援部会の鶴我ケイ子部会長と福祉用具部会の副島昌利部会長が中心となり対応致しましたが、介護に対する関心の高さをあらためて感じさせられる思いが致しました。



その後、「介護保険をいかす方法」をテーマに、東京家政大学教授 樋口恵子先生にご講演いただきましたが、介護保険制度の創設にも深く関わりを持たれた先生のお話は、ユニークで大変わかりやすく、福祉サービスの現状を演歌の替え歌にしてご紹介いただいた時には、会場からは笑いと大きな拍手が寄せられていました。



要旨としては、今後の少子高齢社会においては新たなローカルコミュニティ（「老可留」「子見新地」：高齢者が子供たちと安心して暮らしていける地域共同体）が必要である。また介護保険のDNAとして三つの要素、①現実に基づいた政策、②自己決定権と選択、③参画条項と情報公開、を挙げられ、今後介護保険をより良いものとするために留意していく必要があると述べられました。

又、介護保険で良くなったこととして、①みんなで支える制度になった、②医療と福祉の統合が図られた、③自治体職員、住民が元気になった、④苦情を言えるようになった、⑤予防的政策が増えた、との5点を挙げられました。

最後に甘木市婦人会、甘木市職員、在宅介護支援センターの方々による介護劇「介護が必要になったとき」が上演されました。内容は、在宅介護支援センターの利用の方法や介護保険の申請の方法等だったのですが、方言を駆使しながらの親近感あふれる内容で、会場からは大きな笑い声と喝采があがり、講演会も無事にその幕を閉じることができました。

尚、当日はこの講演会参加に併せて熊本県矢部町から保健婦の山下タツヨさん他13名が当協議会活動に対する視察に訪れられ、火野坂副会長をはじめ、手嶋副会長、今村事務局長が応対し、当協議会の設立にいたる成り立ち、運営、予算についての質問にお答えするとともに意見交換を行いましたことを併せてご報告致します。

(記 広報部 野口秀康)



楽しくいつまでも元気に通って

介護保険が実施され、十ヶ月余りたちました。我が家でも高齢(92歳)の母がお世話になっております。介護保険制度が施行される2年ほど前から、老人施設のデイサービスを利用させていただいておりますが、このサービスも当初はどのようにすれば利用できるのか深く考えたこともなく、いざそういう立場に直面してはじめてどうしたものかと心配したというのが実状でした。

そこで役場の福祉係へ相談したところ、詳しく利用可能な方法を教えていただき、また母自身も当時は家庭の状況等を察することができる余裕もあったのでしょうか、サービスの利用を抵抗なく受け入れてくれましたので、私ども家族も安心して母を送り出し勤めに出ることができました。

介護保険がはじまる時、今までと同様にサービスが受けられるのか、認定を受けた後の日程は、内容は、支払い金額はどうなるのか等々制度面に関する心配もありましたが、我が家においては、まず利用する本人である母が「苦にせず通える」のかを一番心配しておりましたので、母の口から「みんなに良くしてもらいました。」とか「知った人が何人もいらっしゃるので心強い。」との言葉が聞くことができ、ホッとした事を思い出します。最近では、母もその日の通所サービスの出来事についての記憶や、諸々の判断力が老いとともに低下しつつあり心配しておりましたが、自宅までの送迎をしてい

ただくようになりましたので、当日は家族も安心して仕事ができます。

ひ孫も、「ひいおばあちゃん、今日はどうやったと？」と時々大人のまねをして、母に聞くのですが、「ほんとに良かったばい、ありがとう。」と言ってくれますので、いつまでも元気に通えたらいいね、と家族で話しております。

齊田様より(通所介護利用者のご家族)

入所してから、

おかげさまで調子もよくなり、毎日楽しく過ごしています。

介護保険になったからと言っても、特に何が変わったかはわかりません。みんなで歌を歌ったり、踊りを踊ったりするのが好きです。最近では、みんなの前で発表する機会がないので残念です。

入所する前は、手足がブルブルと震えて歩くのが大変でしたが、今ではすっかり良くなりました。スタッフの方にも良くしてもらっていますが、みなさん忙しそうなので、なかなかゆっくり話す機会がないので、ちょっと寂しいです。

お風呂の回数も増え、ゆっくりとのんびりと入っていますので、体もスッキリしています。

できれば、ずっとここにいたいと思っています。

(女性 82歳 / 介護療養型医療施設入所中)

● FORUM

Voice

介護保険が始まって

もう一年が過ぎました。新しい制度の元、高齢者を取り巻く状況が変わってきていることを改めて実感させられる気がします。私は病院のソーシャルワーカーをしていますがこの一年で高齢者の患者さんに対するケースワークは多少なりと変化しています。まず皆さんもご存知のとおり、介護保険制度下のサービス(特に在宅サービス)を利用される高齢者お一人お一人に担当のケアマネジャーがおられると言うことです。以前は自分一人でネットワークを使って退院・転院援助をしていましたが、現在は担当ケアマネジャーとの連絡調整がほとんどです。ケアマネジャーが退院後のケアマネージメントを行ってくれるのでスムーズに退院ができるようになりました。本当にケアマネジャーとの連携の必要性をあらためて考えさせられます。現在自分自身も甘木朝倉医師会の居宅のケアマネジャーを兼務しておりますのでこちらの立場でも考えさせられることが多く勉強になっています。

甘木朝倉のケアマネジャーはほとんど看護職と介護職の方がされておられると思いますが、ベースになっている職種によって考え方が多少違うような気がします。看護職の方は医療や看護面を強く強調されますし、介護職の方はやはり介護の面に重きをおかれます。基礎

になっている職種が違うので仕方ないと思っていますし、どちらが良い、悪いとも言えません。

最近では、各居宅介護支援事業所ではどのようなスーパービジョンを行っておられるのか、ケアカンファレンスなどは実施されておられるのだろうかと思うことがあります。私の所属する事業所では、時間を取ってまで行ってはおりませんが、ケアマネジャー三人の基礎となる職種が異なっておりますので、各々の受け持ちについて専門的な意見交換をすることができているようです。現実では、不可能に近いのですが、できればケアマネージメントする際いろんな職種のケアマネジャーの統合した意見が反映できれば良いのではないかと考えます。

事務的な業務も含め、給付管理業務等で大幅な時間をとられていると思いますが、今自分が関わっている利用者のケアプラン、ケアマネージメントははたしてこれでいいのだろうかと思ふと考えさせられることもありますので、できればケース検討会のようなものを居宅介護支援部会でできたらいいのではないかと思います。

甘木朝倉医師会病院
野口秀康

Net News

介護福祉施設部会

部会長 釜堀 始

(1) 第1回部会内容

- ① 短期入所用ベッドの空床利用について、その制度の説明と意見交換。
- ② 入所者が入院された場合に、再入所のために一定期間ベッド確保の必要があるが、それに関する対応や問題点についての意見交換。
- ③ 介護認定非該当者(特にボーダーライン上の方)のやむを得ない場合のショート利用について、市町村の福祉制度の充実を図っていただきたい。
- ④ 感染症罹患利用者の受入について、その現状と各施設の対応について意見交換。

(2) 第2回部会内容

- ① 協議会で現在進めている事業についての各説明。
 - ・「甘木朝倉 高齢者の保健福祉サービス」の冊子発行
 - ・「介護保険・在宅サービス利用者とその家族の意識調査」アンケート実施
 - ・「3/17かんぽ介護講演会」の取り組み
- ② 第1回シンポジウムアンケート結果についての報告
- ③ 介護保険施行後の利用者等の動きなど、施設間の情報交換。

第1回部会開催 H12.12.12

全事業所、8名が参加

第2回部会開催 H13.2.10

8事業所中7事業所、7名が参加

居宅介護支援部会

部会長 鶴我ケイ子

(全体会)

- ① 介護保険制度最新情報
講師：広域連合朝倉 支部 池田志穂氏
* 後日、当日の資料は部会全事業所に送付させていただきました。
- ② 第1回シンポジウムについての感想及び意見交換

(グループ討議)

- ① 主治医との連絡・調整の為の様式(案)について
→今後再検討
 - ② 各事業所毎の情報や工夫している点について
→今後情報の共有化を行う
- 今後の部会としての取り組みについては、専門家による最新情報についての勉強会の実施やケース

検討会の実施についての要望があがりました。

これからも、利用者にとって適切なケアマネジメントができるよう、勉強の場としての部会運営を行っていきたいと思います。

第2回部会開催 H13.1.12

25事業所中18事業所、23名が参加

介護保健施設部会

部会長 野田雅春

(1) 第1回部会内容

- ① 介護認定審査会委員の推薦(老健部門)
→甘木市、朝倉支部各2名
- ② 現在直面している問題点等について意見交換
 - ・入所者の長期化とその対応について
 - ・高齢者施設の中における2号保険者への処遇について
 - ・外泊期間中に在宅サービスが受けられない問題について
- ③ 今後の取り組みについて
 - ・職種毎の部会開催とする。
 - ・運営、介護看護、支援相談、リハビリの4部門とし、各部門年3回実施

(2) 第2回部会内容(介護看護部門)

- ① 現在直面している問題点等についての意見交換
 - ・抑制について(事例検討と各施設の工夫点等)
 - ・家族との関わり方について(ケアプランの説明と同意等)
 - ・職員研修の実施についての取り組み
- ② 今後の部会運営について
 - ・研修や学習の場にもしていく(次回は感染症対策をテーマとする)
 - ・各施設のマニュアルについて、開示できるところは持ち寄る

第1回部会開催 H13.1.12

全事業所、9名が参加

第2回部会開催 H13.2.22

6事業所中5事業所、9名が参加

合同部会実施報告

訪問看護部会 部会長 鬼塚純子
訪問入浴介護部会 部会長 橋本恵美

訪問入浴介護サービスを実施するにあたっては、感染症対策や、リスク管理の面においても主治医や訪問看護との連携が重要となってきます。

そこで今回は、第3回訪問看護部会と第2回訪問

Net News

入浴介護部会を合同で実施致しました。
はじめに、訪問入浴スタッフの知識向上も考え、
たちあらい訪問看護ステーションの池田さんより、
「感染症予防の基本手技」、「感染症別予防対策及び
消毒薬について」講義をしていただきました。
また、訪問看護婦の皆様にも訪問入浴についての理
解を深めていただこうと、実際に使用する浴槽を会
場内に持ち込み、見ていただくとともに、訪室から
退室までのサービスの流れや、移動方法などについ
て紹介を行いました。
会議では、活発な意見や質疑も飛び交い、お互いの
サービスを理解し合い、交流を深めていけるいい機
会になったのではないかと感じました。利用者の方
に対し、「安全でよりよいサービス」を提供していく
ためには、今後も他の部会との連携が必要であることを
を再認識させられました。

部会開催 H13.1.23
両部会所属7事業所中6事業所、11名が参加

訪問リハビリ部会

部会長 野口秀康

この地域内には、訪問リハの会員事業所が2つしか
ありません。はじめての部会を開催し、現在の状況
として両施設からあがったことは、次の通りです。

- ① 入院部門との兼務で訪問リハビリを行っている
ため、利用希望者が増加した場合は、その対応
が困難になってくる。
- ② 訪問リハビリの利用がなく、通所リハビリの利用
者のみである。

在宅療養中の方々へ適切なリハビリ指導訓練を普及
させていくことが、私どもの責務と考えてはいます
が、所内業務との兼務でなかなか難しく、積極的に
PRができていないのが現状です。しかし、要望が
あれば出来る限り対応していきたいとの思いも
持っています。

この地域内には、他に訪問リハビリを行っておられ
る事業者もおられるようです。是非、この協議会に
入会していただき、相互に連携を図っていければと
考えております。

第1回部会開催 H13.2.1
全事業所、6名が参加

通所介護部会

部会長 黒田博喜

前回の部会でも問題になった「事業所外サービスの
実施」について、意見交換を行いました。なか
なか施設外活動が出来にくくなった状況下で、実
際に別府方面への一泊旅行を実施されたある施設
より、その目的や実施方法（職員の配置体制、利
用者負担の問題、介護報酬請求にあたっての留意
点）等について報告を行っていただきました。
また、感染症の方の受入事例として、実際に疥癬
に罹患した痴呆性高齢者を受け入れた際に、どの
ようにして感染予防を行ったかについてのケース
発表も行われました。
その他、3/17に実施される「かんぽ介護講演
会」準備のための協議と、利用者が少なくなる冬
場の各施設の状況についての問題や在宅酸素療法
をされておられる方の利用状況等について意見交
換を行いました。

第2回部会開催 H13.2.7
全事業所、9名が参加

介護療養施設部会

部会長 川波浩司

顔合わせをかね、はじめての部会を開催しました。
これまでの協議会の活動状況等についての報告と、
部会開催の主旨についての説明を行いました。
療養型施設は医療保険適用と介護保険適用との2
つの種別がありますので、各施設の体系について
の再確認を行いました。現在この地域内における
介護保険適用型の総ベッド数は5施設で総数149
床になっています。
各施設が抱える問題点としては、医療と介護と両
方のサービスを実施していることもあり、利用者
に対する説明（制度の違いや負担金の相違など）
が困難なこと等があげられました。
これからも、施設間の連携強化に加え、他のサー
ビス事業者との連携も図りながら、よりよいサー
ビスが提供できるよう努力していきたいと考えて
おります。

第1回部会開催 H13.2.15
全事業所、5名が参加

STAFF PROFILE Part.2

■こんなことを聞いてみました。

- 1 趣味
- 2 今、一番したいこと。
- 3 今、一番大切にしていること(もの)。
- 4 協議会発足にあたって一言。

《役員》

研修部長(訪問介護部会 部会長兼務)
小暮悦子(こぐれ えつこ)
福岡県高齢者福祉生活協同組合
ヘルパーステーション安樹(理事兼甘木事業所所長)

- 1 山、野草観察・鑑賞
- 2 旅行
- 3(自分も含めた)人間関係です。
- 4 地域の人達に喜ばれる協議会であってほしい。(身近に感じられる)

広報部長(介護保健施設部会 部会長兼務)
野田雅春(のだ まさはる)
介護老人保健施設城山荘(管理部長兼支援相談部長)

- 1 旅行
- 2 ゆっくり、のんびりと温泉旅行すること
- 3 髪の毛(アメリカからロゲインを取り寄せ、朝夕2回丹念に育毛中)
- 4 大変な仕事を引き受けてしまいましたが、いろんな方々と知り合えて楽しくやっております。本音で話せる会にしていきたいと思っています。



《専門部会長》

居宅介護支援部会 部会長
鶴我ケイ子(つるが けいこ)
まるごとケアプランサービスいしずえ荘
(チーフ/ケアマネージャー)

- 1 私には何があるだろうかと考え込みます。真剣に考えなければならない年齢になりました。
- 2 数日ぼんやり過ごしてみたい。
- 3 健康であることです。
- 4 現場の声を専門部会を通し波及できる組織としての活動機関になると思います。

訪問看護部会 部会長
鬼塚純子(おにつか じゅんこ)
甘木朝倉医師会 訪問看護ステーション
(管理者/看護婦)

- 1 旅行、花(ハーブ)、アロマセラピー
- 2 海外旅行(イタリア)
- 3 人と人のつながり(一期一会)
- 4 甘木・朝倉の方々但至少でも私が役に立つならばと思ってましたが、私の小さな力はつぶれてしまいそう。

通所介護部会 部会長
黒田博喜(くろだ ひろき)
朝老園デイサービスセンター(所長/生活相談員)

- 1 園芸、スポーツ鑑賞
- 2 一人旅
- 3 愛犬ポリーちゃん、ももちゃん
- 4 会員同士の連携を大切にしていきたい。

通所リハビリ部会 部会長
江藤清子(えとう きよこ)
介護老人保健施設アルファ俊聖(療養部長/看護婦)

- 1 庭の草取りなど土いじり、コンサート
- 2 のんびりとした旅行
- 3 家族
- 4 意義のある活発な協議会とし、それが高齢者に反映でき安心して暮らせるような甘木・朝倉の地になるように思う。

■会報の名称を継続募集しています。奮ってご応募下さい！

前回の創刊号で募集させていただきましたところ、おかげさまで14点の名称をご応募いただきました。しかし、募集期間が短すぎたことのご意見も頂戴致しましたので、締め切り日を延長し、募集を継続させていただきたいと思っております。たくさんのご応募をいただきたいと存じますので、下記要領にて是非ご応募下さいませようお願い申し上げます。

【応募要領】

- ① 応募方法：会報の名称、その名称をつけた理由、氏名、所属先、電話番号をご記入の上、当協議会事務局宛ファックスもしくは郵送にてご応募下さい。(用紙、様式は問いませんが、できれば字体やデザインの指定もお願いします。)
- ② 締め切り：平成13年5月15日(火)まで
- ③ その他：最優秀作品には記念品として図書券を贈呈させていただく予定です。

■協議会の運営協力スタッフ募集中！(興味のある方は事務局までご連絡下さい) お酒の好きな方大歓迎？

事務局

甘木朝倉介護保険事業者協議会 運営部
〒838-0227 福岡県朝倉郡夜須町大字朝日586番地
介護老人福祉施設 朝老園内
TEL (092)926-1171 FAX (092)926-3471

編集/発行所

甘木朝倉介護保険事業者協議会 広報部
〒838-0823 福岡県朝倉郡三輪町大字山隈501番地
介護老人保健施設 城山荘内
TEL (0946)22-1051 FAX (0946)22-1318
印刷/井上総合印刷株式会社